

— 共に生きよう地域の中で —

# し も だ

港北区障害者地域活動ホームしもだ広報誌

第 66 号



### 目 次

- 1面 … ひろい支援の輪
- 2面 … 支援の現場から  
ボランティア日記
- 3面 … 移動情報センター・交流室
- 4面 … なかまたち・休みの日③



YK会のパフォーマンスにぎやかに

## ひろい支援の輪

# しもだにYK会が やってきた

～ 歌、爆笑トーク、そしてダンス！ ～

YK会とは、落語家・故桂小金治師匠が中心となり結成されたゴルフコンペの会で、Y（横浜）K（小金治）会の略称です。

「人のために何かをしたい」という思いから、1989年よりチャリティゴルフコンペの会に変身、以後20年以上募金活動を行なっています。YK会の活動はお金の寄付のみだけでなく、年に一度、12月に障害者施設へ会員の方々が実際に足を運び、クリスマス慰問会を開催されています。



左から柴俊夫さん、小嶋勇さん、せんだみつおさん

YK会の皆さまが、今年活動ホーム「しもだ」に来てくれました。

### 「大盛り上がり」のクリスマス

活動ホーム「しもだ」のクリスマス会はすでに終わり、何となくお正月の雰囲気漂うなか、12月18日（火）現会長で俳優の柴俊夫さんを中心に、タレントのせんだみつおさん、その他豪華芸能人の皆さまや会員の皆さま方が遊びに来てくれました。皆さん当初からのメンバーで、とても仲が良い雰囲気はこちらにも伝わってきました。

「しもだ」のメンバーや家族、その他別の活動ホームからも参加。皆にサンタの帽子やトナカイの角が配られ、始まる前からワクワクドキドキ。間近で見る生バンドの演奏の迫力に参加者一同釘づけです。せんだみつおさんは、会場を巻き込んだトークで外まで笑い声が響くほど。最後はメンバーも立ち上がり、生歌にあわせてダンスを楽しみました。

あたたかい心を持った会員の皆さま楽しい時間をありがとうございました。また会える日を楽しみにしています。

活動ホームしもだ

## バザー！

雨天決行

とき： 5月19日（日）

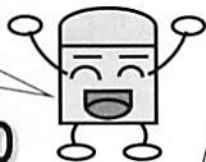
時間： 10:00～14:00

内容： 寄贈品の販売

軽食・ゲームコーナー

手作り品・野菜・花など

ご不要品  
(未使用のもの)  
ご寄付ください！



連絡先：045-562-3600

支援の現場から

障害者と  
医療の壁

ダウン症のAさんは、認知症らしきものを患っていらっしゃると思います。しかし、認知症であると診断されているわけはありません。

現在Aさんは幸いにもある医師の治療を受け、症状もずいぶん落ち着いています。しかし、ここまで来るのは大変な道のりでした。

一昨年の夏に変化が現れてから半年のうちにたちまち状態が悪化、専門医への受診が必要になりました。

ところが、連絡した医療機関にはことごとく断わられてしまったのです。「障害申請診断書の作成しか請け負っていない」「言葉を理解しない障害者は診察できない」等という理由でした。

ダウン症協会にも連絡しましたが、「子供を診る所ならあるが、成人はわからない」ということでした。そんな中で幸運なことに、

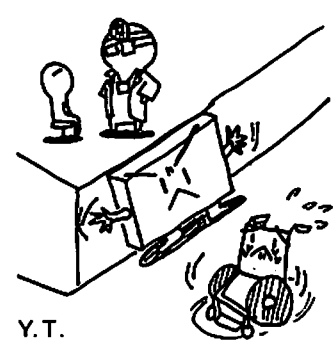
とある「つて」からコネをたどり、やっと今の医師に診ていただけるようになったのです。受診先を探し始めてから治療の開始まで、実に既に5ヶ月目でした。

この事例から、いくつかの問題点がみえてきます。

1つ目。障害者福祉は、誕生し学齢期については研究・実践が多いが、中高年期については、ほぼ空白状態である。認知症的障害者には相談の窓口さえない。

2つ目。そのため、認知症的障害者には、ごく普通の当たり前な受診の道が開かれていない。

3つ目。知的障害者は現状では認知症の診断ができない。通常、診断は脳画像の確認と面接によって行なう。しかし知的障害者の場合、一般的な認知症診断ス



Y.T.

ケールを使えず、病前からある知的障害と認知症による症状を鑑別する手法が確立されていない。

Aさんの治療を行っている医師は、患者の日常生活の様子を介助者から聴きとり、そこから認知的な症状を認定し、必要な治療を行なっています。このような手法を、診断技法として一般的なものにしていく必要があります。

すべての人に  
分け隔てなく

こうした諸問題を解決し、誰にでも開かれた医療を実現することが急務です。

しかし、障害者福祉の現場は、日々の生活や活動の支援で手一杯です。

やはり公的機関が主体となり、積極的に相談・受診・診断・治療等に関する研究プロジェクトを主導し、開拓していったってほしいところです。

すべての障害者たちが、分け隔てなく当り前に、医療の恩恵を受けられるようになって欲しいと、今回の事例を通じて深く考えさせられました。

毎朝が私の活力

送迎ボランティア  
永田 純香

早いもので送迎ボランティアを始めて11年になりました。

住まいも近所で、始める前からバザーや人形劇に子供を連れて行っていたのと、活動ホームを通りかかるたぐいあいさつを交わっていたので、特に緊張感はなく始めることができました。

同じ車の方たちはみなさん明るく、送迎ボランティアが私の日常の一部となり、一日の活力となっています。

最近ありました。

去年の11月、「私今日誕生日なんだ！」と話したところ、職員の方には言われたわけでもなく一人の方が歌いだしたら、皆さんもハッピーバースデイ トウユーを歌ったり手を叩いたり、微笑みをくれました。

この年になりお祝いをしてもらうこともめつきりなくなっていた中でのサプライズは、驚きうれしかったです。皆さんの純粋な気持ちにとっても感動し、そんな皆さんがまた一段と好きになりました。

これからも皆さんとの楽しい会話と安全運転を心がけますのでよろしくお願ひします。朝のひと時で元気に一日過ごせたらうれしいです。



永田さんの顔(佐藤真也さん・画)

ボランティア日記



自己紹介をする「コスモス工房」の横尾さん

**「しもだ」**  
**「コスモス工房」**  
**からも発言！**

「ガイドヘルパー利用者  
 さんに聞いてみよう」  
 の会に参加して」

移動情報センター西脇さんの司会により質問形式で会が進んでいきました。

前半は各作業所、活動ホームの紹介をスライド投影した写真を見ながら説明。出席した所員たちも自己紹介をしました。対面式の座席のため、みんな緊張している様子でした。

場の雰囲気慣れてきたところで質問タイム。「どこに遊びにいきましたか？」の問いに「鉄道博物館です。」と答えたのは既に「ガイドヘルパーを利用している」

しもだの所員。「これから遊びに行きたいところはありますか？」との問いには「動物園。」と「六本木のテレビ局。」と答えたのは「まだ利用していない」コスモス工房の所員でした。緊張もほぐれ、参加者全員の前で堂々と発表しました。

15分休憩での出来事。活動ホームしもだの近所に住んでいる顔見知りの方も参加されており、立ち話に「普段からしもだの所員さんのお顔は知っていて挨拶はするものの、実際にお話する機会がなかったので、このような場でいろいろお話を聞けてよかった。」と親交を深めるきっかけ作りにもなりました。

後半は事前に集めた感想や質問を紹介。例えば「カラオケは何時間ぐらいするのか？」から「月にどれくらいガイドヘルパーを利用しているのか。」などと具体的な内容がでていました。

「しもだ」や「工房」の所員が「どこに遊びに行っただ。」という話は聞きますが、他の事業所の方の出掛け先について聞いたことはとて

も新鮮でした。今回参加した「しもだ」「コスモス工房」の所員からは「勉強になった。」「お出掛けしたいです。」といった声がありました。

**【主催者から】**

港北区情報移動センター

大川さん

港北区では今年度の「港北ほくほくフェスタ」のテーマのひとつで障がい当事者、家族、支援者の方々から「知ってもらえたら心強い。障がい」のことに

いてお話をいただきました。参加された多くの方から、「障がいについての意識が変わった」「障がいのある方からお話を伺う機会がもつとあると良い」というご意見が寄せられました。

そこで今回、「移動」をテーマに障がいのある方から直接お話をいただく懇談会を開催しました。日々の生活やガイドヘルパーとの外出の様子、今後の希望などをご本人の言葉でお話しい

**余暇活動の**

**思い出**



交流室

横浜市下田地域ケアプラザ

所長 星野 昌昭

私は、これまで長きに渡り、同じ港北区内にいる樽町地域ケアプラザの地域活動交流コーディネーター職として勤務しておりました。

子育て中の方から高齢者の方まで、幅広い世代の方々を対象に、地域の支え合い活動のサポートをさせていただきました。その中で、私自身一番

印象的な事業が、障がい児余暇支援活動です。

活動ホームの皆様との共催で、夏休みの「こうほく☆なつとも」や、区内北部エリアの児童生徒を対象にした「からふる」等を実施しました。毎回活動を通じて、お子さんたちの成長を拝見することができました。特に初めて参加されるお子さんにとっては、ご家族と離れて過ごすことに対する緊張や不安や葛藤等が見え隠れしています。しかし、時間が経つにつれて、参加者同士、職員やボランティアさんたちとの距離が近く

なりました。昨年4月より現職に就き、直接交わる機会は減りましたが、今後もケアプラザ職員として、皆様の活動をサポートできればと思います。どうぞよろしくお願い致します。



「しもだ」「コスモス工房」から所員5名が参加。

ただきました。パラエティに富んだ生活を送られていることを知ってもらうことが出来たと思えました。



# なかまたち

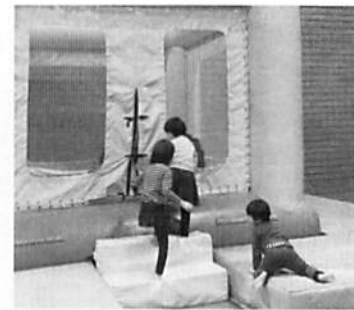


会部  
5育  
そ育  
あ保

みんな  
過ごす夜!!  
楽しい  
お泊り合宿

一年を通して、季節毎の製作や七夕、クリスマス、節分等の様々なイベントがあり、いつも子供達と一緒に大人も楽しんでいきます。そして2月には一泊お泊りでの合宿がありました。

いつもの午前中からの活動とは違い、この日は午後からスタート！チェックインを済ませると運動の準備をして体育館に移動です。そこで真っ先に目に飛び込んできたのは大きなエアートランポリン！みんなニコニコしながら続々と中に入って行き、響き渡る笑い声とキラキラの笑顔でピョ



エアートランポリンであそぼう！

ンピョンピョン！見守る大人達も笑みが溢れます。そして通常活動の中でも行うリズム運動。いつもと違う慣れない環境の中で戸

惑いを見せつつも子供達なりに頑張って参加する姿に成長を感じました。  
また、皆さんと一緒に食べる食事、広々としたお風呂も、慣れないお部屋に泊まる事も全て、子供達にとつて良い経験になったと思います。

「楽しかったね！」「まだ帰りたくない！」「また泊まりに来たい！」と言う子供達の言葉を聞いて、後ろ髪を引かれる思いで宿を後にしました。

### 給食三姉妹♡

美味しい給食は  
元気の源

2月2日(土) 横浜ラポールにて、感謝の集いがありました。

活動ホーム「しもだ」からは、給食ボランティアの



感謝の集いで表彰されました

村野令子さん、中谷茂子さん、菊池榮子さんが表彰されました。

いつも美味しい給食と笑顔がありありがとうございます。これからも宜しくお願致します。

### ようこそ、新入り君！

これまで長きにわたりご活躍頂きました先代の洗濯機がご勇退されたのを機に、活動ホーム「しもだ」はこの度めでたく新しい洗濯機を迎えました。

早くも先代の功を見習い、私たちの洗濯物を日々黙々と洗い続けてくれています。

### ご寄付を頂きました

山極洋子様、下田地区民生委員児童委員協議会様、YK会様、持田進様、交野哲様、梅澤峯子様、小澤和子様  
ありがとうございます。

港北区障害者地域活動ホーム

「しもだ」

運営委員長 片野 芳昭

〒231-0064 横浜市港北区下田町

六三三一一八

☎ 〇四五五六一三六〇〇

FAX 〇四五五六一五九九一

編集発行 広報部

## 休みの日<sup>30</sup>

演野 絵梨さん

### ◇予定のない休日は

何も予定のない休日は、絵梨が自分で起きてくるまで、ゆっくりと寝かせます。

朝食を済ませると、お気に入りの場所「ソファ」に移動します。ソファでは背もたれではなく、左肘置きにもたれて、

座席に足を伸ばしてくつろぎます。

そしてその時までに「アッヒーが出て来ない時は「アッ！」と言って相図を送り、人差指をピクピクと動かしてコーヒーを催促します。その後、散歩に出かけたりします。

引越後の最近の定番散歩コースは菊名池公園です。自宅から公園まで、競歩のようなスピードで歩く絵梨の後を、「待って、待って」と叫びながらついて行きます。公園に着いて池を一周した後、泳ぐカモを見ながら

ベンチでちょっと休けいしたいなと思う母の願いは聞入れられず、すぐにまた来た道を戻ります。

また機嫌の良い時には、道路を渡った所にある菊名池公園プールも一周します。さらにもっと機嫌の良い時には、プールの横のスーパリーにも付き合ってください。

今年の冬の寒い日にも、二人とも汗をかいて家に帰ってきます。

アッ、また絵梨が人差指をピクピクとさせています。  
(母)